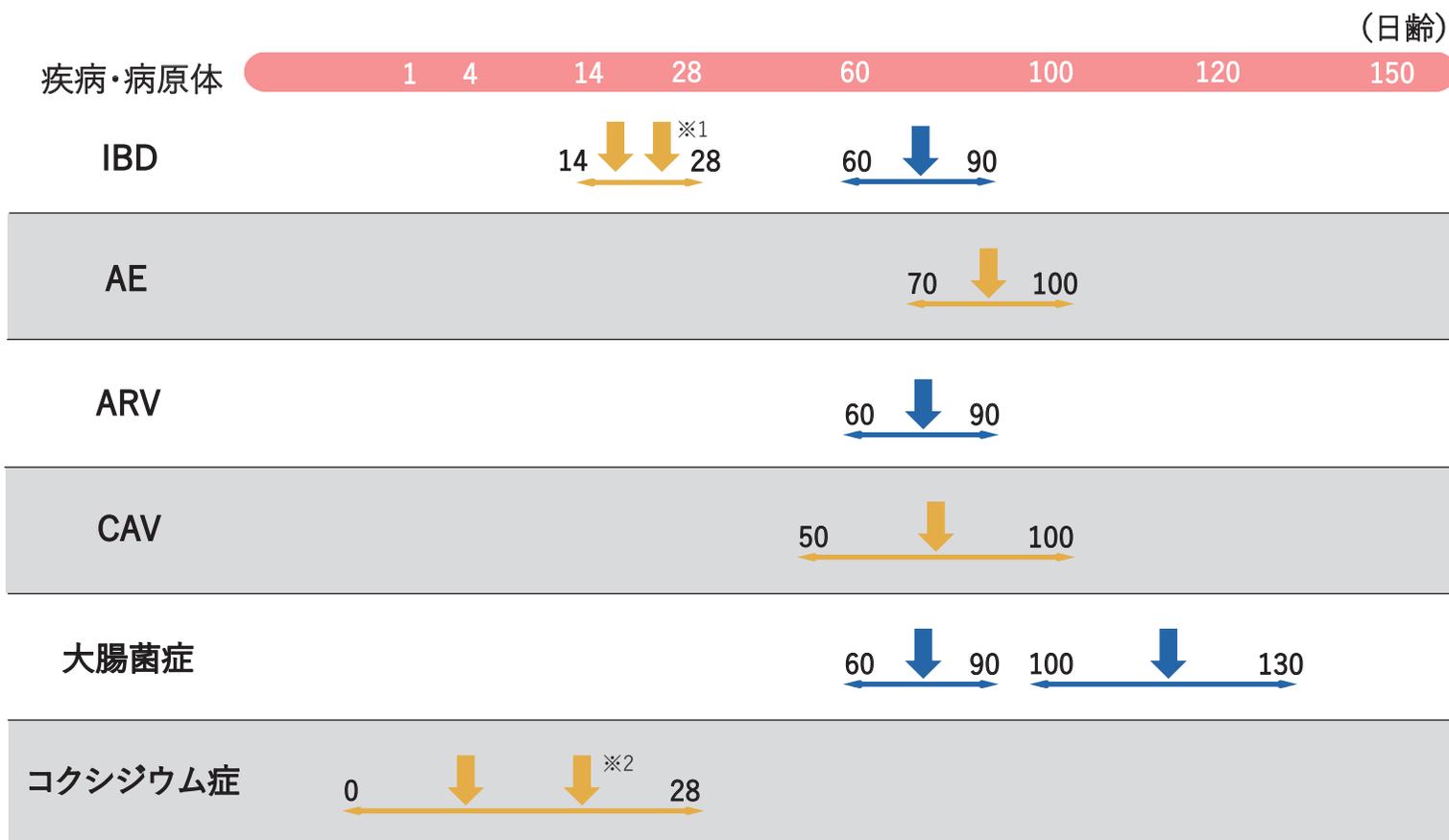


ワクチネーションプログラム(種鶏)

種鶏は採卵鶏のワクチンに加えて、トリレオウイルス(ARV)感染症、鶏貧血ウイルス(CAV)感染症のワクチンを接種することがあります。また、採卵鶏とは異なり、ひなへの高い移行抗体の付与を目的として、鶏伝染性ファブリキウス嚢病(IBD)抗原を含む油性アジュバント加ワクチンを接種します(種鶏に特に使用されるワクチンのみを以下に図示)。

*採卵鶏のワクチネーションプログラムも合わせてご参照ください。



↓ : 生ワクチン ↓ : 不活化油性アジュバントワクチン

※1 : 1週間隔で2回接種する。18~19日齢発育鶏卵での卵内接種に置き換える場合もある。

※2 : 1回目は鶏コクシジウム感染症混合生ワクチン、2回目は鶏コクシジウム感染症(ネカトリックス)生ワクチンを接種。2回目の接種は、初回接種から4日以上間隔をあける。

(出典: 鶏病研究会, 鶏病研報, 53(2), 82-95, 2017
「総合ワクチネーションプログラム2017」)

<疾病・病原体名 正式名称>

IBD: 鶏伝染性ファブリキウス嚢病

A E: 鶏 脳 脊 髄 炎

ARV: トリレオウイルス

CAV: 鶏 貧 血 ウ イ ル ス

※ワクチンは獣医師等の処方箋・指示により使用すべき要指示医薬品です。ご使用の際は製品の添付文書をよくお読みください。